

安曇野さんさん通信 第14号

2021(令和3)年5月10日発行

～緑が減った?! 穂高墓地公園フェンス工事～

植栽から黒フェンスへ変更された穂高墓地公園の外周について、「緑が少なくなって残念だ」と市民の皆様から問い合わせを頂きました。確認して分かった、工事の経過と理由をご紹介します。

平成30年の大阪北部地震でのブロック塀倒壊による児童死亡事故を受け、市内でも施設の塀を点検したところ、穂高墓地公園の外周の一部で最新の耐震基準を満たしておらず、また植栽の根が張り、倒壊の危険があることが判明しました。植栽も検討されましたが、施工の都合上、植栽が根を下ろすスペースがないこと、管理負担を減らすことから黒フェンスの設置に至ったとのことでした。

また今回の工事中に、市民団体が15年以上育ててきた絶滅危惧種「オキナグサ」の一部の株が誤って撤去されました。当初の施工から時間が経ち、市職員の記憶から忘れ去られてしまったことが主な原因と推察されますが、大切な事柄を職員交代時の申し送りに留めず、誰でも判る図面にするなど工夫が必要と感じます。



オキナグサ

～多様性のある議会へ 最近の動き～

「村議会に若手が躍進」

4月25日に生坂村、白馬村で村議会議員選挙が行われました。生坂村は、議員の成り手不足解消のため、55歳未満の議員報酬大幅引き上げを敢行し、20年振りの選挙でした。新人3名は全員当選、最年少は37歳でした。55歳未満は1名から3名に増え、女性議員は2名となりました。

白馬村も選挙戦で女性5名が立候補しました。新人5名が当選、最年少は27歳でした。

若手・女性議員の増加は、議会構成が住民の人口構成に近づき、ひいては、多様性のある社会の実現につながります。

「安曇野市議会の会議規則が改正されました」

主な改正点は、従来「事故」しか認めていなかった欠席事由を、「公務、疾病、育児、看護、介護、配偶者の出産補助その他のやむを得ない事由」へと変更し、産休期間を「日数を定めて」から「出産予定日前6週間から出産後8週間の範囲内」へと明記しました。全国の県議会、市議会、町村議会の3議長会が標準規則を変更したことを受けての改正でした。様々な事情を抱える人が政治に参画しやすくなるもの、と評価します。

「議会でのハラスメントにNOを」

地方議会の女性議員の6割が、有権者や同僚から何らかのハラスメントを受けた経験がある、という調査結果が発表されました(内閣府調査)。

セクシャルハラスメント、パワーハラスメント、アルコールハラスメントなど多岐にわたり、具体的には、「性的・暴力的な言葉」「性別に基づく侮辱的な態度や発言」が多いとの結果でした。ハラスメントは、女性の社会進出や議会進出を、より困難にします。女性や若手を議会に送り出すためにも、議会は自浄作用を発揮して、「ハラスメントNO!!!」に取り組むべき時期を迎えています。

発行 小林ようこ後援会
安曇野市穂高 8108 番地 TEL 0263-82-6090
e-mail yoko@sunnydayazumino.com
URL <http://www.sunnydayazumino.com/>
Facebook「小林ようこを応援しよう」

～安曇野市議会議員 小林ようこ活動レポート～

田植えが進み、残雪の北アルプスと新緑が映し出される水鏡の景色は、安曇野を象徴する最も美しい季節です。いかがお過ごしでしょうか。ワクチン接種により、コロナ感染が収まることを待たれます。

さて、県内外での昨今の選挙では、若手や女性の当選が増えてきました。コロナ禍などで、社会や地域の様々な問題が関心を集め、新しい発想で解決することへの期待が高まっていると感じます。日ごろお気づきのことがございましたら、ぜひお声かけください。引き続きよろしく願いいたします。



「安曇野、よいまちつくろう」～ 安曇野を深掘りし、発信します～

～ヘルプマークをご存じですか?～

内部障がいや難病の方など、外見からは分からなくても援助や配慮が必要であることを知らせる「ヘルプマーク」。JR 大糸線の車内放送でも案内されていましたよ、との情報がありました。「ヘルプマーク」を当たり前のように知って、周りへの温かな配慮が、そこかしこにあふれる安曇野市にしていきたいと思います。

県や市も普及に取り組んでいます。必要な方はご連絡ください。



ヘルプマーク

～地場産物をより重視 「学校給食実施基準」の改正～

文部科学省が定める「学校給食実施基準」が改正され、4月から施行となりました。①成分基準の見直し(減塩、増食物繊維・ビタミンC)、②適切な食事時間の確保、③食育のあり方、の3点が主な変更点です。

特に、③食育のあり方では、地場産物を「生きた教材」と位置付け、自然、文化、産業や、郷土料理への理解を深め、食への感謝の気持ちを育むこと、が盛り込まれています。

児童・生徒数の減少で、統合案も出ている市内の給食センターですが、今年度は、市内産の「自然栽培米」を初めて提供するなど、新しい取り組みも行っています。新たな基準に沿って、より一層安曇野の自然・文化・産業への理解が深まる機会になることを期待します。



学校給食は
大切な食育の機会